



(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	愛知県	市町村名	岩倉市	大学名	
派遣日時	令和 7年 8月 22日(金曜日) 13:30~16:00 ※本報告書とは別に、派遣当日の次第、研修実施要項・日程表等、日程の詳細(休憩時間も明記)が分かる資料を添付してください。				
実施方法	派遣 / 遠隔 ※いずれかに○をつけてください。				
派遣場所	岩倉市立南部中学校				
アドバイザー氏名	齋藤 ひろみ 先生				
相談者(受講者)	岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室担当者、市内指導主事、市内小中学校教員、近隣市町村の指導主事・日本語指導担当教員・支援員 (合計27名)				
相談内容等	<p>現在、市内中学校の日本語教室で指導を担当する教員たちで、日本語教室の国語科カリキュラム(現行の国語科の教科書に掲載されている教材について、それぞれどのように指導するかが一覧になったもの)を作成している。今年度から新しく日本語教室の「めあて」に設定した「自分を大切に、未来を切り拓く児童生徒」を育むために、カリキュラムの形式などを刷新したいと考えている。しかし、この「めあて」を実現するための授業の目標の立て方、目標に沿った活動の考え方など、その具体化が困難であったため、齋藤ひろみ先生の派遣をお願いした。さらに、新しい「めあて」に設定したことで、学期末に児童生徒と保護者に渡す日本語教室の通知表(評価)や、個別の指導計画の形式も、全て新しい形式を作成しているため、それらについてもご指導をいただきたいをお願いをした(岩倉市日本語教室の新しい「めあて」や、現在考えているカリキュラムや評価、個別の指導計画について、研修の初めに各担当者より説明をさせていただいた。詳細については、添付資料2・3を参照のこと)。</p>				
派遣者からの指導助言内容	<p>1 新しい「めあて」について</p> <p>「自分を大切に、未来を切り拓く児童生徒」とあるが、日本語教科学習のゴール(日本語教育の目標とする子どもの姿)を具体的に設定すると、全体でゴールが共有できる。</p> <p>さらに、子どもにとってことばを獲得することは、世界を広げ成長・発達することであること、日本語教育の3つの課題(A 学校・社会生活、B 学習・認知面の発達、C アイデンティティ形成・自己実現)に関して、目標を設定して取り組むことをご指導いただいた。その後、ご指導いただいたことを、実際の事例で考えてみるために、グループワークをおこなった。</p> <div style="text-align: center;"></div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 具体的にゴールを考えるためのグループワーク 学習期間2年後と5年後に目標とする子どもの姿を発達段階とともに考えた。次に、その目標を達成するためにどのような日本語の力が必要かを4名程度のグループに分かれて考えた。そして、全体で話し合ったことを共有した。</li></ul>				

	<p>例：小学校低学年 来日 2 年の目標とする姿 →目標とする姿：学級活動に参加できる 必要な日本語：給食係で必要な日本語など、少人数での会話がわかる</p> <p>例：中学校 来日 5 年目の目標とする姿 →目標とする姿：自立して学校生活が送れる 必要な日本語：全体的な指示を理解してメモをとる。指示に従って自立的に委員会活動に参加できる。</p> <p>2 新「国語科」カリキュラムの活用について</p> <p>「ことばのものさし」で標準化された言語能力の捉え方によるアセスメントから、個の子どもそれぞれが、日本語でどのようなことができるかという具体的なゴールを設定することで、学習指導計画（カリキュラム）という具体的な学習課題や活動、そして目標の決定につながるとご指導いただいた。その後、中学校部会が事前に作成した新「国語科」カリキュラムは、滞日期間が長い子どもを無意識的に対象としていたため、そのカリキュラムを滞日 2 年程度の子どもに行うとしたら、どのようなアレンジができるのか、グループごとに作成されたカリキュラムを一つ例に挙げて考えた。</p>  <ul style="list-style-type: none"><li>・ 滞日期間が長い子どもだけでなく、少ない子どもを対象としたカリキュラムのアレンジについて考えるためのグループワーク 例：人間関係や心情を視覚化して示す 教科書の文章をリライトする 母語で説明する</li></ul> <p>3 講師の先生からいただいたコメント</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 目指す子どもの姿から、教育活動を考えることが大切</li><li>・ 担当者一人一人が考えをもっていて、それをみんなで共有できたことが素晴らしい</li></ul> <p>(詳細は、添付資料 4・5 を参照のこと)</p>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>&lt;参加者の感想（抜粋）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 今回、岩倉としてやっていきたいことはこうですと提案し、それについてご指導いただいたことで、やりたいことを具現化する 1 歩になりました。</li><li>・ 生徒の 2 年後、5 年後の到達点を見据えた議論は、言語を通じてどのように成長していくことができるのかを改めて考えることができました。</li><li>・ リライト教材や視覚的な情報に関する具体的な扱い方の注意についても大変勉強になりました。これまでの実践での取り入れ方では、その場の意味理解は促せても、次の学習に生かせるような力をつけるようなものではないものも含まれていることに気づくことができました。今後、取り入れて行く際に、それが生徒の力を高めるものになっているかどうかという視点で精査していきたいと思います。</li></ul>

- ・今回の研修で、新しく持った視点は、カリキュラム・「評価」・個別の指導計画は、互いに関わり合っているということです。「評価」で個の力を捉え、個別の指導計画で個の目標を設定し、個の生徒たちが集まった教室で、「自分を大切に、未来を切り拓く児童生徒」を育むために、児童生徒がいかに学ぶのかを示すのがカリキュラムなのだろうと考えています。「個」の見取りを、カリキュラムの中で具体的に示せるような形式を再考いたします。
- ・先生に「どのくらいのレベルに相当する生徒をイメージして作成しましたか」との問いに、大きいことを意識しすぎるあまり、根本的な足元をみることを置き去りにしていることに気がつきました。この視点を踏まえてまいちどカリキュラム作成に励んでいきたいと思えます。
- ・日本語学習の目標を設定するときには、日本語教育の課題を「文化適応・コミュニケーション」、「教科等の学習参加」、「キャリア形成・社会参加」の3つの分野に関して(滞日期間によって、組み合わせを変える等して)考えるという点がとてもわかりやすく、ゴール設定の仕方を学ぶことができました。

#### <今後の方針>

- ・これまでは、カリキュラム、評価(学期末に配付する児童生徒・保護者への日本語教室の通知表)、個別の指導計画を別々に作成していたが、今回のご指導で、それらは関連性があることがわかった。今後は、「ことばのものさし」から、具体の日本語のゴールを描くことを通して、カリキュラム・評価・個別の指導計画を包括的に捉え、全人的な日本語指導を設計できるようにしたい。
- ・今年度は中学校の新「国語科」カリキュラムを作成している。今後は、小学校においても、新しい「めあて」である「自分を大切に、未来を切り拓く児童生徒」を育てるカリキュラムについて、今回中学校のカリキュラムを通してご指導していただいたことを基盤にして考えていきたい。
- ・岩倉市は面積が狭く、産業が乏しいため、決して財政状況が良い市だということはいできない。この現状より、日本語指導を担当する教員のための研修費は、毎年ゼロ円であり、文部科学省の本制度の力を借りなければ、外部から講師を招く研修会の開催は難しい。しかしながら、岩倉市の日本語教室は、近隣市町の日本語教室を引っ張る拠点であるため、来年度もこのような研修会を開催したいと考えている。来年度は、中学校の新「国語科」カリキュラムを活用した日本語指導を実践した結果、もう一度、カリキュラム構成を再考する機会としたい。また、今回の研修では中学校のカリキュラムを扱ったが、来年度は小学校の新「国語科」カリキュラム作成も始まるため、小学校から中学校へと9年間を見据えたカリキュラム設計について、ご指導いただきたいと考えている。

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。